

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200662		
法人名	富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム小芝の家 (1階、2階合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区小芝町2-13		
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouCd=2274200662-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、催しを利利用者様も御家族様も楽しんでもらえるようにしています。日頃からもレクリエーションにも力を入れており、身体を動かしたり、頭を使ったりと、バリエーションも多く利用者様にとっても良い刺激になってると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR清水駅や繁華街にも近く、アクセスの良い場所に立地しています。散歩していると保育園児が手を振ってくれたり、園で採れたサツマイモや野菜を届けてくれることから地域に馴染んでいることが覗えます。また毎月20名余の高校生がボランティア活動に訪れ、ボールや人形を使ったゲームなどで楽しませてくれます。高校生ならではの柔軟な発想と若さあふれる元気な声に、利用者が「早く来ないかな」と玄関で心待ちにするほどです。事業所では機能訓練のためのボーリング、ゲーゴルゲーム、シーツバレー、テーブルサッカーなどの取組みが日常的におこなわれ、参加している利用者の生き活きた表情が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と、ホーム内の理念、ユニットごとの理念を決め、その理念に基づき実践している	ユニットごとに職員が理念を作成し、リビングに掲示しています。「利用者個々の時間を造る」ための意識ある行動がみられ、理念にもとづいた運営の結果として、居室にこもることなく皆で過ごす時間が長くなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設してから9年経っているため、改めて交流することは少なく、日常的に地域の一員になっている	3ヶ月毎に事業所が発行する広報誌に、運営の様子を掲載しています。広報紙は町内会でも回覧され、隣の菓子店から綿菓子の機械を借りて夏祭りに役立てたり、買い物は近隣を利用して、つきあいを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を作り、ホーム内での様子、行事を載せ、回覧板に入れてもらい、中の様子を知っていただき、地域行事に参加し、理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前に比べ運営推進会議を開催する回数が減った	運営推進会議では外出についての意見をはじめ、自治会からは「防災訓練に参加してもらえたら、顔の見える関係につながる」との提案が挙げられ、友好的な雰囲気の中に進められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者変更後、市町村との連携がとれていない	昨年6月に管理者が変更したことに伴い、市行政との関係は希薄になってしまいました。事業所の体制が整い次第、連携を回復していくことをめざしています。	事業所の様子を報告し、行政との接点広がることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放して、どなたでも入りやすい環境を作り、常に身体拘束とはなにか考えるようにしている	管理者が身体拘束廃止フォーラムに参加し、その資料を職員間で閲覧しています。またスピーチロックを含めた身体拘束に該当する行為を説明し、周知をはかっています。ドラッグロックを防ぐための話し合いもおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が気付き合い、虐待を見過ごさないように注意を払いあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を今以上に増やし活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時に口頭と文章を照らし合わせながら説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望を受入るようにしている。毎月1回必ずお手紙を書き、御家族からの意見も気軽に話していただけるようにしている。また、他の相談窓口があることを契約時に説明している	最近の状態を口頭で報告し、また毎月手紙に一人ひとりの様子を詳しく記載して送っています。また「こちらではこのように考えていますがいかがでしょうか?」と記載し、家族の意向を仰ぐことで意見が届くこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は意見交換を密にしているが、代表者と管理者、職員が話をする機会がなく、月1回管理者がグループホームの会議を行っている	毎月の会議で「何でも言ってください」と発言を募り、また普段の勤務の中からも考えを聞き取るようにしており、また管理者による個人面談も実施しています。意見が挙がった場合には否定せずとりあえず実行してみることも大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	どこまで、代表者が管理者、職員の勤務状況を把握しているのかわからない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修報告等も必ず行い、一人一人の力にあった研修の参加をし、外部、内部の研修をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と情報交換したり、姉妹ホームの職員同士交流を図り、サービスの質を向上させるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへ来ていただいた時に要望等聞き、関係作りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ホーム内の見学時、契約時に御家族の今現在の不安や、今後の要望を聞き、関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の必要としている支援を見極め、状況に応じた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者との関係作りを常に考えるように指示し、共に生活をする同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、御家族に日頃の様子を伝えると共に、毎月1回必ず手紙を出し状況報告して、利用者を支えていく関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親戚、友人、近所の方、どなたでも気軽に訪問してもらい、職員とも顔なじみになり、気軽に話をしている。また、かかりつけ医も継続して、関係を築いている	徒歩やバスでも来所できる便のよい立地のため、月に1回程度は家族や親戚が面会に訪れています。姉妹ホームに友人がいる利用者の電話、手紙のやりとりも手伝っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日々の生活の中で把握して、毎月席の移動をしたり、職員が間に入り、関わりがもてるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、御家族、他のホームの方と連絡をとり、関係作りしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後、サービス計画見直し時等、利用者の希望を聞き、状況を把握し、支援するように努めている	表出しにくい利用者には対応する職員を替えたり、寄り添い詳しい話を聴くことに時間をかけて本意を把握しています。「余っているものもあるので使いますか？」という職員からの働きかけで、気持ちが分かった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族訪問時や、親しい方が来ると、生活歴を聞いたり、利用者との会話の中から、情報得て、これまでの暮らしの把握をするようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調面、精神面を把握して、生活の中に苦痛がない様にしている。意見が出た際はすぐに実行するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを定期的にし、介護計画を作成している	順番に担当者を決めてアセスメントをおこない、計画作成担当が立案しています。モニタリングでは職員全員が話し合い、利用者の状態を把握し、次回の計画作成につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はすべて、介護記録に記入し、毎朝、夜間帯の様子を申し送り、日勤職員は毎朝前日の記録を見て、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員、利用者、御家族と相談して、サービス内容を変更し、柔軟な支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、安全に豊かな生活が出来るように、一人一人の意見を聞き、その方にあったように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、御家族の希望に沿って、かかりつけ医の診察を受けるようにしている	協力医以外への診察にも職員が同行していますが、総合病院への受診は家族に依頼しています。急遽の受診には職員が速やかに対応し、治療や処方に変更があった場合には家族に報告しています。毎週1回、訪問看護が巡回しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康状態を確認し、1週間の出来事を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には、入院時職員も御家族と一緒に同行し、日頃の様子を報告し、情報提供している。また、入院中も連絡を取り合い、状況把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明して、重度化になる前に医療機関へ行くように支援しているが、状況に応じて、常に家族と話し合い、決めている	看取り介護はおこなわない方針で、状態が悪化した場合は医療機関や入所施設を紹介しています。終末期に関して家族と十分に説明をおこなっていることもあり、意見相違などの問題は生じていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを職員全員に渡し、事故発生時の対応が出来るようにしている。また、内部研修をし、勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をし、スムーズに避難出来るよう訓練している	本年度の訓練では、1階から2階に利用者が移動しました。職員がスムーズに動けず、右往左往してしまうことが分かり、迅速な避難に向けて貴重な経験になりました。	救急救命講習や消火訓練について消防署からの協力が得られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前から声掛けのトーン、声掛けの仕方を常に意識するように指導し、プライバシー保護に配慮しているつもりだが、まだまだ出来ていない	新任職員の中にはタメ口をきいたり、「～ちゃん」で呼ぶ者もいたため、その都度指導しています。丁寧な言葉かけにより、利用者から確固たる信頼を得られることが大切であると教育しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声掛け、利用者の思い、希望に沿った生活が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体調に応じて、その日の過ごし方を決め、常に状況を把握して、生活出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみをし、衣類も本人の希望があれば、その希望にそって支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の中に入り、食事中会話をしたりして、過ごしている。また、出前を取って通常メニュー以外の物を用意し、楽しみを作っている	食事に飽きがこないよう月間の献立表にとらわれず、利用者が好みとする味付けなど創意工夫をおこなっています。また、利用者が咀嚼しやすいように切り分けて、おいしく食べられるように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、食事量、水分量を記録し、状況に応じて把握して対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして、清潔保持を保ち、状況に応じて、歯科受診している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導し、状況に応じて、使用する下着を換え、自立にむけた支援を心掛けている	排泄チェック表に記録し、時間ごとにトイレ誘導をしています。リハビリパンツとパットを使用していた利用者が布パンツとパットになったり、夜間はオムツ内に排尿していた利用者が自分でトイレに行けるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認して、水分量や食事形態を考え、日々の生活の中で予防出来る事に取り組み、主治医へ相談、看護師への相談をして、利用者に応じた対策をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴曜日を決めているが、希望に応じて入浴できる。今、現在は利用者の皆様、それに沿って来ており、入浴日を楽しまれている。また、入浴剤を変えて楽しみを作っている	浴室は1階のみに設置され、原則として1階と2階の利用者が曜日ごと交互に入浴しています。毎日、利用者の好みに応じて入浴剤を使用しており、希望があれば曜日に関係なく入浴できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、横になったり、居心地の良い場所において、気持ちよく生活している。夜間も睡眠パターンを把握して、対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録のファイルに挟み、どの薬がどんな作用があるか、把握し、理解するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のやりたいことを聞いたり、楽しそうにする姿を観察して、本人が生活の中で、楽しいと思えることを行い、喜び、楽しみのある生活を送る支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等を考えながら、外に出れる支援をしている。隣がお菓子屋のため、おやつを買いに行ったりも出来ている。	お弁当を持参しての公園ピクニックも楽しみの一つです。また清水の七夕まつりには、同法人内の事業所と合同で見学に出かけることもあります。個別外出の取組みが最近になって中断しているため、再開をめざしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の要望で高額は事務所で預かり、出かける際、お金が足りない時、事務所に取りに来て、買い物へも出掛ける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば、その都度、対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く開放的な雰囲気、日が当たる箇所にはソファを置き、居心地良く、休む姿も見られる。	共用空間には暖炉(レプリカ)や和室のスペースもあります。ボウリングやバランスボール、レーザーカラオケなどが備えられ、使い慣れた様子からも日常的に利用者同士で娯楽を楽しんでいることが覗えました。	季節の生花が取り入れられることにより、利用者の刺激や話材の拡がりにつながることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席を決めることにより、共有空間で、自分の場所を確保して、思い思い過ごしたり、ソファに座って談笑されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット、戸棚、チェストがあるため、使用していた物を持ち込むことはあまり見られない。湯呑み、箸、毛布、などは持ち込んでもらうが、使用してるうちに変わっていく	居室にはベット、クローゼット、鏡台兼机、イスが備えられていて、その他に私物が持ち込まれています。編み物を継続している利用者のため、職員が自宅で余っている毛糸を持ち寄り、職員が習うこともあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がホーム内で、出来ること、出来ないことをしっかり観察、把握して、自立した生活が送れるようにしているが、建物内部に不備があるため、注意が必要		